

Analisis Kesalahan Penggunaan *Tenka no Setsuzokushi Soshite, Sorekara, Soreni*, dan *Sonoue* dalam Kalimat Bahasa Jepang

Fadhila Arienda Humaira  
1301354

ABSTRAK

*Setsuzokushi* (konjungsi) mempunyai peranan penting dalam pembentukan kalimat bahasa Jepang. Walaupun penggunaan gramatikalnya benar, namun apabila pemakaian konjungsinya tidak sesuai maka akan merubah makna kalimat yang dimaksud. Banyaknya jenis *setsuzokushi* yang memiliki makna yang hampir sama namun memiliki fungsi dan penggunaan yang berbeda-beda, menyebabkan pembelajar bahasa Jepang sering melakukan kesalahan. Penelitian dengan judul “Analisis Kesalahan Penggunaan *Tenka no Setsuzokushi Soshite, Sorekara, Soreni*, dan *Sonoue* dalam Kalimat Bahasa Jepang” ini bertujuan untuk mengetahui persentase kesalahan, kesalahan apa saja yang muncul, dan faktor penyebab terjadinya kesalahan penggunaan *tenka no setsuzokushi soshite, sorekara, soreni*, dan *sonoue* dalam kalimat bahasa Jepang pada mahasiswa semester VI DPBJ UPI Tahun Akademik 2017/2018 sebanyak 46 orang. Metode yang digunakan adalah metode deskriptif. Teknik pengumpulan data menggunakan teknik *one shoot model* (pengambilan data satu kali dalam satu waktu) dengan tiga buah instrumen yaitu tes, angket dan wawancara. Data yang diperoleh berupa data kuantitatif dan kualitatif. Hasil penelitian menunjukkan kesalahan dalam fungsi dan makna *setsuzokushi soshite* yang menyatakan hasil/kesimpulan (*sono kekka*) sebesar 71% sebagai kesalahan paling banyak. Sedangkan kesalahan yang paling sedikit sebesar 46,7% adalah kesalahan gramatikal *setsuzokushi sorekara* yang berupa kalimat bentuk perintah dan ajakan (*-tekudasai, -masho*). Faktor penyebab kesalahan, diantaranya adalah penyamarataan berlebihan sebesar 58%, penerapan kaidah yang tidak lengkap sebesar 28%, pengabaian batas-batas kaidah bahasa 11%, dan salah menghipotesiskan konsep sebesar 3%.

Kata Kunci : Analisis Kesalahan, *Tenka no setsuzokushi*

*Error Analysis of Addition Conjunction Usage Soshite, Sorekara, Soreni, and Sonoue in Japanese Sentences*

Fadhila Arienda Humaira  
1301354

ABSTRACT

*Conjunction have an important role in the formation of Japanese sentences. In the case the grammatical structures is correct, but if the conjunction is not appropriate, it will change the meaning of the sentences. Many types of setsuzokushi which have a same meaning, yet have a different function, causing the learner of Japanese language often makes mistakes. A research entitled "Error Analysis of Addition Conjunction Usage Soshite, Sorekara, Soreni, and Sonoue in Japanese Sentences" aims to determine the percentage of errors, student's error that might emerge, and to identify factor which caused error addition conjunction usage of Soshite, Sorekara, Soreni, and Sonoue in Japanese sentences on 6<sup>th</sup> semester of Japanese Education Departement of Indonesia University of Education students on academic year 2017/2018 as many as 46 persons. Descriptive method was used in this research. Data collected by using one shoot model technique (one time in one period of time) through test, questionnaire and interview as instruments. Data obtained in form of quantitative and qualitative. The results shown that error in the function and meaning of setsuzokushi soshite which express the conclusion (71%) as the most mistake. While, grammar error of setsuzokushi sorekara which shows imperative sentence and invitation sentence (-tekudasai, -masho). Factor of errors are overgeneralization (58%), incomplete application of rules (28%), ignorance of rule restriction (11%), and false concept hypothesized (3%).*

*Keywords : Error analysis, Addition Conjunction*

## 要旨

文と文をつなぐ接着剤の役割を担う「接続詞」は日本語の文章で極めて重要な役割を果たす。文章において間違い接続詞を付けば、文法的に正しいにもかかわらず、意味が変わるようになった。更に、ほぼ同じ意味であるが、接続詞は機能及び用法が異なるので、日本語の学習者はしばしば間違いをしてしまう。添加の接続詞の「そして」、「それから」、「それに」及び「そのうえ」の誤用分析という本研究の題名は誤用の割合を知り、どのような誤用が浮かび上がったこと、2017・2018 年度インドネシア教育大学の日本語教育学科の第六学期の学生に対して日本語の文章で添加の接続詞の「そして」、「それから」、「それに」及び「そのうえ」の誤用の起こった原因、そういう目的を持っている。本研究の分析方法はデスクリプティブ法を使用する。One shoot model「一度に1回のデータ検索」というデータ収集技術を使用し、研究のインストルメンとしてアンケートとテストとインタビューを選んだのである。その結果、最大の誤用として71%に結果・結論（その結果）を述べている「そして」の機能と意味を示している。それに対して、最小の誤用として46,7%に命令形・意志形（～て下さい、～ましょう）を述べている「それから」の文法的であった。誤用の原因は過剰規則(58%)、不定全な規則適用(28%)、不規則な制限ルール(11%)および推量の誤解(3%)を占めている。

## A. 序論

### 1. はじめに

接続詞は品詞の一種で活用しない自立語で接続語になるものである。接続語とは理由や条件を表したり、文と文をつなぐ役割をする。接続詞は日本語の文章で極めて重要な役割を果たす。石黒(Xiyi, 2015 : 1)によると、接続詞は書き手側から見ると、それを使うことで自分の文章を論理的に書くことが出来るものであり、読み手側から見ると長い文章の連接関係が分り、文脈が把握できるものであると述べた。さらに、重要な情報に集点を絞ったり、内容の含意が分かりやすくなるとも指摘した。

接続詞には様々な種類があり、その一つは添加の接続詞と言われている。添加の接続詞は複数のものやことがらを並列的に述べたり、付け加えて述べるときに使われる(Iori, 2001 : 473)。添加の接続詞の例文は次のように述べている。

- 1) 昼は運動して汗を流し、そして夜は遅くまで大いに語り合った。
- 2) デパートで買い物をして、それから映画を見て帰った。
- 3) 忙しいし、それにお金もないから、旅行には行けないよ。
- 4) 祖父は最近耳が遠くなった。その上足も弱ってきた。

(Yokobayashi, H & Shimamura, A, 1988 : 80- 82)

それらの四つの接続詞は同様の意味を持ち、機能・用法の違いを明確に理解することが困難と思われる。そのため、学習者は接続詞を使う際に誤用が多くなる。

誤用分析とは、学習者がおかす誤りについて、どのような誤りが存在するのか、なぜ誤りをするのか、そして、どのように訂正すればよいかなど考え、日本語教育、日本語文法論などに役立てようとする研究である。

今まで接続詞の誤用分析についてたくさん研究している。先行研究では、Ajeng (2015) による研究したように順接の接続詞の誤用分析に関して、そして Dien (2013)は逆接の接続詞の誤用分析の研究などがある。また、Sakaue (2014)は添加の接続詞に関する研究したが、意味・用法分析に焦点を当てた。添加の接続詞の誤用分析の研究はまだないので、インドネシア教育大学の日本語教育学科の第 6 学期の学生に対する添加の接続詞の「そして」、「それから」、「それに」及び「そのうえ」の誤用分析を研究しようとするのである。

## 2. 研究の目的

- a. インドネシア教育大学の日本語教育学科の第 6 学期の学生に対する添加の接続詞の「そして」、「それから」、「それに」及び「そのうえ」の誤用の割合を明らかにするためである。
- b. インドネシア教育大学の日本語教育学科の第 6 学期の学生に対する添加の接続詞の「そして」、「それから」、「それに」及び「そのうえ」の誤用の種類を明らかにするためである。
- c. インドネシア教育大学の日本語教育学科の第 6 学期の学生に対する添加の接続詞の「そして」、「それから」、「それに」及び「そのうえ」の誤用の起こった原因を明らかにするためである。

## 3. 研究方法

本研究の分析方法は記述法である。記述法という分析方法は問題を解決するためにいくつかの可能性を検討し、データを収集し、解決する方法である。Sutedi (2011 : 58)によると、記述法は現在に起こっている状態を客観的に述べ、記述する。つまり、インドネシア教育大学の日本語教育学科の第 6 学期の学生に添加の接続詞「そして」、「それから」、「それに」及び「そのうえ」の誤用を記述する。本研究の方法は次のようである。

a. データの収集技術

本研究ではテストとアンケートを行い、*One shoot model* 「一度に 1 回のデータ検索」というデータ収集技術を用いる。また、テストの結果ができた後、インタビューする。

b. データの分析

本研究のアプローチは定量的と定性的を用いる。定量的分析はテスト結果を割合に分析し、さらに定性的分析は誤用の種類や原因を述べるために用いる。

c. 研究のインストゥルメン

データを収集するために、28 問のテスト (20 問の選択式、8 問のエッセイ) と 12 問のアンケートを調査行われた。その上、インタビューである。

#### 4. 研究の時期及び対象者

本研究ではインドネシア教育大学の日本語教育学科の第 6 学期の学生から 46 名を対象者になり、6A クラスは 22 名、6C クラスは 24 名である。しかも、本研究は 2018 年 5 月 9 日に 6A クラスで、2018 年 5 月 15 日に 6C クラスで実施したのです。*One shoot model* 「一度に 1 回のデータ検索」によるデータの収集時期は 45 分程度が与えられた。

## B. 本論

### 1. テストの結果とデータ分析

46名の回答者に回答の分析結果に基づいて、添加の接続詞「そして」、「それから」、「それに」及び「そのうえ」の誤用の頻度及び割合が見出された。得られた結果を以下の表に示す。

図 1. 添加の接続詞の「そして」、「それから」、「それに」及び「そのうえ」の誤用の頻度及び割合の表（選択式）

添加の 接続詞	アспект		番	F	%	合計	
						F	%
そして	意味的	結果・結論（そのけ っか）	1	28	60,9	98	71
			7	37	80,4		
			17	33	71,7		
	意味的	お互いに重なるこ と・状態	5	31	67,4	57	61,9
			14	26	56,5		
それから	意味的	因果関係（その時以 来）	18	32	69,6	56	60,8
			20	24	52,2		
		会話で言い忘れた時	3	30	65,2	89	64,4
			8	30	65,2		
			12	29	63		
	文法的	命令形・意志形 （～て下さい、～ま しょう）	2	19	41,3	43	46,7
			13	24	52,2		
それに	文法的	話し言葉で（～ し、～形）	4	22	47,8	82	59,4
			9	27	58,7		
			15	33	71,7		
	意味的	似たようなことを付 け加える	19	27	58,7	27	58,7
そのうえ	文法的	硬い表現	6	28	60,9	62	67,4
			11	34	73,9		
	意味的	それだけでも十分な のに、さらに	10	33	71,7	65	70,6

			16	32	69,6		
--	--	--	----	----	------	--	--

図 2. 添加の接続詞の「そして」、「それから」、「それに」及び「そのうえ」の誤用の頻度及び割合の表 (エッセイ)

添加の 接続詞	アспект		番	F	%	合計	
						F	%
そして	意味的	お互いに重なること・状態	2	24	52,2	45	48,9
			5	21	45,6		
それから	意味的	順番の事柄	1	23	50	46	50
			6	23	50		
それに	意味的	似たようなことを付け加える	3	23	50	44	47,8
			8	21	43,5		
そのうえ	意味的	「それだけでも十分なのに、さらに」	4	26	56,5	44	47,8
			7	18	39,1		

上記の表に基づいて、全体的に添加の接続詞の「そして」、「それから」、「それに」及び「そのうえ」の誤用は十分高い役割を示し、4割以上を占めている。最大の誤用として 71%に結果・結論（その結果）を述べている「そして」の機能と意味を示している。それに対して、最小の誤用として 46,7%に命令形・意志形(～てください、～ましょう)を述べている「それから」の文法的であった。また、選択式及びエッセイの各アспектの誤用割合を比較した後、回答者はたとえアспектが同じであっても、エッセイのほうがより正確に答えることができる傾向がある。例えば、お互いに重なること・状態という「そして」の意味で、選択式の割合は 61,9%を占めている。それに対して、エッセイの割合は 58,9%を占めている。

更に、浮かび上がった誤用は「そして」と「それから」をしばしば交換された。何故かという、回答者は前後にある接続詞の文脈をあまり注意していなかったからである。授業で「そして」と「それから」がしばしば浮かび上がっても、実際には学生が理解不足になってしまう。また、次の浮かび上がった誤用は「その上」であ

る。多くの回答者は「その上」に関する意味や用法が分からなかったため、「それに」に交換されてしまうのである。

また、エッセイの調査結果に基づく、添加の接続詞の誤用が多く見つけたのである。各々の誤用は理論による誤用原因に分類したのである。その結果は添加の接続詞の「そして」、「それから」、「それに」及び「そのうえ」の誤用の原因は過剰規則(58%)、不定全な規則適用(28%)、不規則な制限ルール(11%)および推量の誤解(3%)を占めている。

## 2. アンケートの結果とデータ分析

図 3. アンケートの結果

番	質問	回答	割合
1	接続詞を知っていますか。	はい	87%
		いいえ	13%
2	授業で接続詞について勉強しましたか。	はい	100%
		いいえ	0%
3	「そして」、「それから」、「それに」及び「そのうえ」の意味と用法を知っていますか。	非常に	2%
		十分に	48%
		あまり	50%
		全く	0%
4	日本語の読書や教科書-などには、「そして」、「それから」、「それに」及び「そのうえ」よく発見していますか。	いつも	26%
		よく	65%
		またに	9%
		全く	0%
5	「そして」、「それから」、「それに」及び「そのうえ」の同様を理解しましたか。	非常に	2%
		十分に	33%
		あまり	61%
		全く	4%
6	「そして」、「それから」、「それに」及び「そのうえ」の違いを理解しましたか。	非常に	4%
		十分に	26%
		あまり	63%
		全く	7%



7	「そして」、「それから」、「それに」及び「そのうえ」を用いる時によく困っていますか。	いつも	17%
		よく	66%
		またに	15%
		全く	2%
8	「そして」、「それから」、「それに」及び「そのうえ」を用いる時によく間違っていますか。	いつも	17%
		よく	66%
		またに	17%
		全く	0%
9	あなたの用いた「そして」、「それから」、「それに」及び「そのうえ」は正しいのが確かですか。	非常に	9%
		十分に	69%
		少し	22%
		全く	0%
10	「そして」、「それから」、「それに」及び「そのうえ」を勉強するのは難しいですか。	非常に	6%
		十分に	33%
		あまり	46%
		全く	15%

アンケート調査結果により、回答者は教科書などに添加の接続詞をよく発見したと分かったのである。また、添加の接続詞の同様と違いを理解不足してしまったので、接続詞を用いるときにしばしば困り、間違っている。上記の質問以外に筆者誤は誤用を克服する努力を述べている。回答者の最大の努力はより知識が持っていると考えている友達に聞くことである。

## C. 結論

### 1. 終わりに

データの調査結果に基づく、インドネシア教育大学の日本語教育学科の第 6 学期の 46 名の回答者に対する添加の接続詞の「そして」、「それから」、「それに」及び「そのうえ」の誤用の割合は全体的に 50%以上を占めている。つまり、回答者には多くの誤用をやってしまうと分かった。最大の誤用として 71%に結果・結論（その結果）を述べている「そして」の機能と意味を示している。それに対して、最小の

誤用として 46,7%に命令形・意志形(～てください、～ましょう)を述べている「それから」の文法的であった。

学生が適当に接続詞を決定することができなく、全体の文脈を把握しなく、また接続詞の意味及び用法が理解しない、そういう添加の接続詞の「そして」、「それから」、「それに」及び「そのうえ」の誤用であった。

## 2. 今後の課題

本研究では完全の研究ではなかったと思っている。そのため、将来の研究は今後の課題にする。特に「そのうえ」の用法で6学期の学生における誤用の割合が高いので、7学期が対象者になるほうが良いと思っているのである。

## 参考文献

- Sutedi, D. (2009). *Penelitian Pendidikan Bahasa Jepang*. Bandung: Humaniora Utama Press.
- Xiyi, W. (2015). Setsuzokushi Kyouiku no Minaoshi no Hitsuyousei. *Japan Women's University*, 54, 1-16. doi: [http://mcm-www.jwu.ac.jp/~nichibun/thesis/kokubunmejiro/KOME\\_54\\_26.pdf](http://mcm-www.jwu.ac.jp/~nichibun/thesis/kokubunmejiro/KOME_54_26.pdf)
- Yokobayashi, H & Shimamura, A. (1988). *Gaikokujin no Tame no Nihongo Reibun Mondai Shirizu 6- Setsuzokushi no Hyougen*. Fukuoka: Aratake Shuppan.